



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1929, 12(4): 310-314

ISSUE DATE:

1929-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183663>

RIGHT:

(P. Nowograblenow und P. Tschirvinsky)

OMetalization from Basic Magmas. By Carlton D.

Huini. (Bulletin of the Department of Geol. Sci.

Univ. of California Publications. Vol. 18. No. 9.)

1929.

ONachrichten von der Gesellschaft der Wissen-

schaften zu Göttingen. 1928. Heft 2. 1928

ueber europisch-zentralasiatische

Gebirgs-zusammenhänge. (H. Stille)

## 雜 報

### ○鈴鹿の筆捨山 (圖版第四版の説明)

關西線關驛の北三軒に在る東海道的一名勝、第三紀古期礫岩砂岩の奇怪なる形狀を成した丘陵にして、狩野古法眼元信が雲烟去來の山貌を寫さんとして筆を投じて已んだといふ傳説があつて、中央水田の先に見える小屋は昔の此の勝景を眺望する茶屋の遺跡といふ。但し筆捨は振捨の轉訛で西行法師の鈴鹿を詠じた浮世を振りすてといふ句から出たとの説もある。今は山頂の老松古杉全く伐り去られて兀々たる殺風景を呈するのは遺憾である。

觀音山は同じく礫岩砂岩のつくつた丘陵であつて關の町はづれにある。

### ○支那の菜種

製油原料としての、植物種子は支那に多い、其主なるものは大豆、桐實、落花生、菜種、胡麻、棉實、辛子種、亞麻種、麻實、茶實等であるが、その中菜種は製油原料として我邦に輸入さるゝ量も大きい。

その主産地は、黄河、揚子江の沿岸で、江岸の方が多い、上海に出廻る菜種は主として浙江、江蘇、安徽、湖南、湖北江西即江岸の各省であつて、浙江、江蘇、安徽、三省のみでも年額三百萬擔に達する、之等は産地によりて、蕪湖物、常熟物、平湖物、浦東物、蘇州物、漢口物、温州物、寧波物など、稱せられて賣買せられる、粒子の色相によりて黄粒、黑粒、褐粒及混粒の四つに區別し、黄粒といふは黄色にして油分が多い、江蘇の産である、黑粒以下は油分が少い、昔は種に泥を混入してこまかしたが、大正十五年以後改善されて、雜分三分以内になつた、これは日本全國製油聯合協會と在上海日本人穀肥同業組合との間に協定が出来て、公認鑑定人が品質を檢定するやうになつてゐる結果である、猶夾雜物の中に辛子種を混入するときは製油の色が混濁するので、大に警戒されてゐる。

菜種の出廻りは早きは五、六月で、七月が盛である、單位は一石であるが、各地不同であるけれども、大體は一一〇斤乃至一一八斤である、大戦中は歐洲へ向けられたが、近頃は日本へのみ輸出される。

本年度蕪湖、漢口其他産地の作柄は良好で、品質もよい、

昭和三年には三十九萬四千五百袋(一石)が輸入された、恐らく本年もこれに近い輸入を見るであらう。

### ○航空機による米大陸横斷旅客輸送

最近米國で

は東西兩海岸の連絡に鐵道と航空機を兼用し、二日乃至二日半で米大陸横斷旅客輸送の計畫が成立した、ユニバーサルエヤー、エクスプレス社は、紐育中央及サンタフェ鐵道會社と協力し、六月中旬から業をばじめ、七月初旬から、トランスコンチネンタル、エヤー、トランスフアー會社も輸送をはじめた。

兩者共夜間は鐵道を利用し、晝間は航空機を用ひるのであるその時間左の如し

#### 第一、ユニバーサル、エヤー、エクスプレス線

西海岸行(使用機、フォックスカー發動機三箇)

第一日 午後五時紐育發セントラル鐵道により

第二日 午前グリブランド著、夫より航空機にてカンサス

州ガーデンシチー迄飛行、同夜サンタフェ鐵道に乗かへ

第三日 汽車中

第四日 午前九時十五分ロスアンセルス著

所要時間約六十四時間、運賃一人約二百五十弗

第二、トランスコンチネンタル、エヤー、トランスフアー線

(リンデバーク線)

西海岸行(使用機フォード發動機三箇)

第一日 午後六時五分紐育發ペンシルバルニヤ鐵道による

第二日 午前コロンバス(オハイオ州著)それより飛行機にてオクラホマ州リイカ迄ゆく、午後六時四十分著同地に

てサンタフェ線に乗換

第三日 午前ニューメキシコ州クロビスにて飛行機にのり

かへ、ロスアンセルスまで、午後六時四十分著

所要時間四十八時間

運賃一人約三百五十弗

### ○バルボア及クリストバル間航空輸送

中米パナ

マ地峽では五月五日からバルボア、クリストバル間の旅客に航空輸送をやつてゐる、これこそ最短の兩洋連絡の航空路である。

クリストバル(フォーク河)發 毎日午前七時、同十時半

午後四時

バルボア(棧橋十八番)發 午前八時、午後一時三十分、

同五時

所要時間三十分、使用機金屬製ハミルトン水上機八人乗料金片道十弗、往復十五弗、荷物三十封度まで無料、子供は半額(三歳以下)

### ○英國に於ける本邦豌豆其他色豆

英國に輸入せ

らるゝ豌豆は其數量百七十萬ハンドレッドウエイト、其價格百九十萬七千磅に達する、この各國かの輸入に伍して、その約三割五六十萬磅からの輸入品といへば本邦豌豆である、和蘭品はこれについて第二位である、和蘭は隣國であつて、本

弊品のごとく印度洋を經由せず、且長距離に必要な乾燥が不要であるから、粒形色合等本邦品にまさり、且初夏需要期の供給に早速間に合うから本邦品よりも有利であり且つ高價である、しかしその品種粒形等多種であるから、本邦品のごとく同一種類の品物を多量に、且年中いつでも供給することが出来ないといふ不利がある、そこで我國の豌豆が大に勢を得た次第であるが、この際神戸雜穀商同業組合、神戸天產物輸出組合、小樽雜穀商同業組合等の提携により、組合検査を嚴重にしたことを特筆しておかねばならぬ、和蘭の輸入額は一九二八年に四十五萬磅、英領印度からは十九萬磅ニュージーランドから十五萬磅、カナダから二萬磅であるのに比し日本が七十五萬四千磅の多きなしめたのである。

猶一九二八年ダニユープ沿岸の色豆が例年に比して不作であつたため本邦產大手芒、長粒豆等の色豆が必要され、ロンドンから大陸へ輸入された、猶ますますこの品種の需要があるらしい。

### ○米國の石油

米國は世界第一の石油國でその投下された資本は總計百五億乃至百十億弗、製鐵業に對する二倍である、この資本の二分一は採油に他の二分一は精油、運油、市場等に用ひられてゐる。

米國では毎年二萬五千乃至三萬の油井が五億弗の經費で三十五萬人からの人の手で試掘される。加州の如き最も豊富な石油地でも二十一井の中一つあたれば成功だといふ物で、中

々當らない、中部やメキシコ河沿岸の百四十郡で、試掘八百五十九箇所の中八割一分三厘といふものは、莫大の經費と數十萬人の勞働者を費してすべて失敗であつた。

加之毎年鑽孔せらるゝ油井中約二割五分は乾涸し、一割は瓦斯井となる約二割は初期の日産二十六バレルに過ぎず、結局初期日産千バレルに達するものは二割乃至二割五分である現在七十一萬六千箇所の井があつて、實際の產油井は三十一萬四千であるから、一井一日の平均產出八「バレル」にすぎない、多くの噴油井は開井後一年以内に噴出量の半分を放出し終る。

かうした次第で、產油井は速くよめるので、米國の最初の石油はペンシルバニア州であつたが、夫よりイリノイ、インディアナ、オハイオ、及ウエストヴァージニア州に移り、飛でカリフォルニアに至り、再び逆戻つてオクラホマ、テキサスに移るといふ風である、現在では米國の石油の產出量の八割五分以上は最後のオ、テ、カの三州の產である。

石油初期時代の井戸の深さは五百呎乃至千呎で、二千五百乃至一萬呎でほれたが、今は五千呎が最淺で、六千呎七千呎深きは八千呎に達し、一油井十二萬五千弗、乃至十五萬弗を要する。

現在米國の石油產出高は世界產出の七割をしめる、しかし世界需要の六割五分を消費する、其埋藏量は世界石油埋藏量の僅に一割八分に過ぎぬ。

一九二七年世界の總產油額十二億六千六百七萬三千バレルの

内米國は七割一分五厘をしめたが、一九二八年に世界産額十三億二千二百八十九萬バレルの中六割八分二厘を占むるに止まつた、米國の産油は凡九億バレルであつて増減がないが世界の産額が増加したからである。

しかしかやうに考へるとこの勢を持續するためには米國は中々苦しい立場にある、さてこそ米國の識者は石油資源の保存問題をやかましく論じてゐるのである、故に最大産油州であるテキサスに於ては、最近に州内産油制限法制定をやるといふことである。もし同州でこれが確定すれば他の石油産出州も州法律を以て産油制限を強制し、無制限の石油探掘の争をさけるやうになるであらう。

### ○人造絹糸輸入倍増

本邦の人造絹糸輸入高は一月以來次の通り毎月累増を示し四月までの累計を前年同期に比べると二倍以上の激増にあつてゐる(單位數量斤、金額圓)

	數量	金額
一月	一九、四八五	四三、九三七
二月	二五、七一八	五三、九三四
三月	四〇、九三四	六七、六〇三
四月	四三、三九六	七七、六四一
累計同期	一二九、五三三	二四三、二三五
前年同期	五三、一八二	一一四、五二八
比較増	七六、三五一	一二八、七〇七

右輸入増加は、戻税を見込んで、各機業家が思惑輸入を行つ

たのにもよるが、これを積出し國別に見ればイタリヤ、ドイツ、英、佛諸國製品増加に反しスイス、オランダ、米國品は却て減少を示してゐる、他方本邦の人造絹糸輸出は支那、關東州、アルゼンチン等に對し一月から四月までの累計五千八百餘斤九千五百餘圓に過ぎず、前年同期に比し五分の一以下に激減して居るがこれは内地需要が盛んであるため到底輸出に振向ける餘力がないことによるものであると。

### ○國際圖書

に推薦された武藤氏の實業讀本(英、獨、佛語に譯され出版) 鐘紡社長武藤山治氏の著書たる實業讀本が今回英、米、獨、佛等三十六ヶ國の教育學者及び實際教育者よりなる國際教育聯盟の審議會で開催された協議會で國際交換圖書に推薦された、右の審議會では各國より二十四冊の著書が推薦候補に上げられ其内でもフォード、ロスチャイルドなど世界一流の實業家の著書とともに而も武藤氏の著書が首位とすることに満場一致可決されたものであるが同審議會はマンチエスター大學教授ミューア博士を會長とし各國大學教授三十六名の審議員より成るものであるが、この實業讀本は直ちに英、獨、佛の三ヶ國語に翻譯出版される事となつたといふ。

### ○北海道駒ヶ岳見聞記記事中の正誤

地球第拾貳卷第二號(八月)掲載「北海道駒ヶ岳見聞記」記事中に於て、主要な噴出物を泥流と記載したが、其の後諸先生の御注意があり、猶且つ東北帝國大學岩石礦物礦床學教室諸

氏が報ぜられて居る様に、浮石流とする方が正しいことが判明した故、泥流を浮石流と訂正する。即ちこの浮石流は一度抛出せられた浮石が多量に堆積し山崩れの如く流下したものであつて、火口壁を乗り越えて流出したと考へたのは誤りである。

尙該火山破裂に關しての既刊報告類の主なもの参考までに記載する。(笹倉、吉澤記)

一、胸ヶ岳噴火(國富技師)

二、胸ヶ岳爆發調査概況(根本廣紀)

以上氣象要覽第四十五卷第五百五十六號(七月)

一、胸ヶ岳火山の噴火

(多田文男、坪井忠二、岸上冬彦、高橋龍太郎、津屋弘達、中田金市)

東洋學藝雜誌第四十五卷第五百五十六號(八月)

一、岩石礦物礦床學雜誌第二卷第三號(九月)

## 質疑應答

【問】ドネーブル河下流の港。

【答】ドネーブル河は歐露に於てヴォルガ河につぐ大河にして全長二千百軒途中に淺瀬ありて上下兩流に分つ、上は千七百軒下は三百軒、淺瀬の長は九十軒に達す、この間船舶不通であるから下流から上流へゆけない、そこで近頃運河計劃がある。

下流三百軒は平原を流れ、水は濁らずして黒海に入る、こ

の下流の頂點はサポロジエで、河口はウクライナの貿易港ヘルソンである、冬期結氷するから航行休止すれども、夏期の航運は盛である、サ市からヘルソンまで下航二十三時間、上航二十九時間、毎日定期船がでる。船賃一人八留である。

サポロジエはもとアレキサンドロフスクといつたが、これは一七三八年の創立である、その以前はサポロジイ人の居住地でサポロジエ、カザツク軍の共有財産地であつた、毎年新年に際して、隊長を選擧したる上抽籤にて土地の分配を定め、唯一箇年使用しうることとし、自己の所有とすることを許さなかつた、屯田制の地であつたが、ヒーター大帝の時露國に征服されてしまひ、沿岸地方は一面の農地で、大地主の所有地になつたが、革命後全部國有となつて、大地主は追はれ、その家屋も國有化して、村役場、農民館、學校娛樂場等に變り一人の農夫は一町一段程の土地を與へられて耕作してゐる。小麥裸麥牧草をつくるサポロジエ市はさうした農地の中心で製粉所や農具製造所や綿製造所又はベーコン製造所などが出来、人口十萬餘を算する、下流に佛國人が移住して葡萄をつくつてゐるところがある、こゝは河岸の砂地を開拓したもので、ウクライナ、シヤンパーニエといふ名の酒ができる。河口のヘルソンは海から百軒、河口より三十軒の右岸高地にある、地位形勝であるために大に發展しウクライナにての貿易港となつた、遂にはオデッサの位置を奪うであらうと考へられる農産物輸出港である。(F)